



つくし通信

2018年 5月 第1号



つくしくみがスタートして1ヶ月が経ちました。新しい環境や担任になかなか馴染めなかった子も、徐々に慣れてくると、保育士に抱かれて喜んだり、玩具で遊んだり可愛い笑顔をたくさん見せてくれるようになりました。一人ひとりの生活リズムも少しずつ整ってきています。

最近では、天気の良い日には、近くのお寺や港までベビーカーに乗ってお散歩に行ったり、おんぶや抱っこで鯉のぼりをみたり、花壇の花を眺めたり、靴を履き、ジャングルジムで伝い歩きをしたり、戸外遊びを楽しんでいます。

月齢によって個人差の大きい0歳児ですが、この1年でたくさんの事を経験していく事と思います。子ども達にとっての「はじめて」を、保護者の皆様と一緒に喜び合い、子ども達一人ひとりの成長を見守っていきたいと思います。

！！離乳食は子どもの目線になって！！



出産、授乳から子育てが始まり、母子の呼吸、赤ちゃんのリズムが解つてくると環境づくりのチャンスとなります。赤ちゃんは全て母親に依存・信頼している為、大人は一方通行にならないよう配慮が大切です。授乳はある程度把握しやすいのですが、離乳食は基本は伝えられているものの、具体的な時期・時間・量・固さ・授乳との関連をどのように進めて良いか戸惑うようで、そこで母親が心掛けておきたい事など対応できる項目をあげてみました。

★離乳食は味わう経験のスタート。生後5ヶ月頃から首がすわり、遊び飲み、よだれを流し、食器に手を出す仕草。あやすと声を出して笑い、体重がほぼ7kg程となる。

★スプーンを唇に当て閉じようとしたり、ゴックンと飲み込もうとする仕草がみられたら赤ちゃんのペースに合わせてあげてみる。

★生後8ヶ月を過ぎないと牛・豚・鶏肉など動物性蛋白質を分解して消化・吸収する機能が備わらないので植物性・白身魚類から始める。

★一緒に食べる大人が大きな口を開け、美味しそうに食べて見せる。「食事はコミュニケーションと模倣」だからです。

★おやつは10歳まで。最近はおやつの比重が増え、食事に影響して来ています。(2回のおやつは2歳まで) 母親は注意を。

離乳食が始まると、どうしても量や進み具合が気になりがち。手間をかけて作った離乳食を食べてくれないのもお母さんにとっては辛いものです。「食べさせよう」とあせったり無理に食べさせようとするのは禁物。赤ちゃんが「食べるって楽しい！」と感じられるように、お食事タイムを一緒に楽しみましょう。

♡楽しい室内遊び♡



どんな「夢」を見ているのかな！！



ほく可愛いでしょ♪



初めての離乳食美味しいよ！



ボール掴めたよ！



ベビージム、音が鳴るんだよ！



システムブロック遊び楽しいよ！

